

多様性保存のための協力

－第40回国際公文書館円卓会議参加報告－

小原 由美子
国立公文書館

1. はじめに

2007年11月10日から16日まで、カナダのケベック・シティのロウズ・ル・コンコルドホテルを会場とし、ケベック国立図書館公文書館及びカナダ国立図書館公文書館がホストとなって、国際公文書館会議 (International Council on Archives, ICA) の役員会合及び第40回国際公文書館円卓会議 (Conférence internationale de la table ronde des archives, CITRA) が開催され、66か国・6国際機関から約190名が参加した。

CITRA は、ICA の4年に1度開かれる大会と大会の間の3年間、統一テーマの下で連続性をもって開催される。各国の国立・連邦公文書館代表であるA会員と、専門職団体の代表等からなるB会員、その他招待者のみが参加する、200人規模の国際会議である。2005 - 2007年のCITRAの統一テーマは、「アーカイブズ、多様性、グローバル化」(Archives, Diversity, Globalization) で、2005年に行われた選挙においてICA副会長に選出された菊池光興国立公文書館長が、円卓会議議長としてその運営にリーダーシップを発揮してきた。今回の円卓会議はその最後を締めくくる会議として、「多様性保存のための協力」(Cooperate to Preserve Diversity) をテーマとして開催された。

2. ICA 執行委員会

円卓会議に先立って、11月10・11日の2日間、ICA 執行委員会が開催され菊池館長が出席した。今回の執行委員会の最も重要な議題は、2008年秋から就任する予定の次期事務総長を選出し年次総会に推薦することと、昨年(2007)の年次総会で採択され

た「キュラソー合意」のフォローアップであった。

2.1 次期事務総長候補の選出

新しいICA事務総長の選出は、2007年5月に公示され、選考委員会が組織されて菊池館長もその一員として選考に加わった。9月にはベルギーで選考委員会による候補者3名の面接が行われ、元英国国立公文書館職員のデビッド・リーチ氏が次期事務総長候補に選ばれた。今回の執行委員会では、選考委員会の決定を受けて、改めてリーチ候補を執行委員会に呼び、質疑応答を行った。その結果、執行委員会として11月15日に開催されるICA大会にリーチ候補を推薦することを全会一致で決定した。

デビッド・リーチ氏は1959年、英国グラスゴー生。ケンブリッジ大学にて歴史学博士号取得(1985)、ロンドン大学大学院アーカイブズ学科修了(1986)。グラスゴー市公文書館(1986 - 1989)、歴史資料コミッション(Historical Manuscripts Commission, 1989 - 1994)勤務を経て、1994年から英国国立公文書館に勤務。2006年7月、英国国立公文書館からICA本部に派遣され、ICAの戦略計画の策定や国際機関との連携等に関わってきた。2007年7月からはICA事務次長を務めている。歴史学とアーカイブズ学の学位と、20年に及ぶ公文書館勤務経験を持ち、ICAの公用語である英語フランス語はもちろん、スペイン語やドイツ語も解する、知識・経験ともに優れた人材である。また、その誠実でユーモアに富んだ人柄は誰からも好かれ、ICAにおける活動を通じて世界のアーカイブズ関係者から多くの信頼を得てきた。ホームページやメーリングリスト等で広報活動を行ったにも関わらず、次期事務総長への応募

者が少なく（全体で4名）、ICAはそれほどに人気がない組織になってしまったのか、と嘆く声も聞かれたが、結果としては最良の人材が選ばれることになった。



次期 ICA 事務総長に決まった
デビッド・リーチ氏と菊池館長

2.2 「キュラソー合意2006」のフォローアップ

昨年のオランダ領アンティルのキュラソー島で開催された第39回 CITRA では、ICAの改革を討議し、これからの運営方針を年次総会で「キュラソー合意2006」として採択したことは「アーカイブズ」26号で報告したとおりである。その後、キュラソー合意の実現に向けて、ICA 本部を中心に様々な努力がなされ、菊池館長も副会長として特に財政問題やガバナンスの改革に取り組んできた。今回の執行委員会では、ICA のガバナンス、執行体制の改革のためのICA 憲章の改正案について討議し、下記の改正案を承認した。

- 1) 選挙で選ばれる会長及び副会長 [CITRA・財政担当副会長を除く] の任期を4年から2年に短縮
- 2) 次期大会ホストが務めていた上席副会長 (Senior Vice-President) を大会副会長 (Vice-President Congress) と改称
- 3) 執行委員会で会長から任命されていた CITRA 担当副会長を、CITRA副会長 (Vice-President CITRA) として選挙で選出
- 4) 会長不在時の代行を、大会副会長からCITRA

副会長に変更

- 5) マーケティング&プロモーション副会長、プログラム副会長を選挙で選出
- 6) SPA (専門職団体部会) の議長を専門職団体副会長 (Vice-President Associations) とする
- 7) 地域支部議長の互選により地域支部副会長 (Vice-President Regional Branches) を選出
- 8) セクション議長の互選によりセクション副会長 (Vice-President Sections) を選出
- 9) 2年任期のポストは再選3回、4年任期のポストは再選1回までとし、どのポストも最長で8年までとする

財政問題については、2005年以来続けてきた緊縮財政と各国への分担金支払いにおける協力要請が功を奏し、財政危機はひとまず脱して、今後各セクションの活動等に対し補助を復活できる見込みとなったことが報告された。また、ICA の歴史上初めて、外部の権威ある監査法人デロイト社に依頼して国際的に通用する形で外部監査が行われ、その報告書が提出された。ICA 本部における内部の会計報告についても、専門の会計士を雇い、記述や計算の方式を見直した結果、よりわかりやすい報告が行われるようになった。各委員は、これらの報告を受けて、ここによりやく ICA の財政は国際的に透明性の高いものとなった、と評価した。

このほか、ウェブサイト開発状況、戦略計画の進捗状況、プログラム委員会活動等についての報告があった。また、執行委員会と管理運営委員会の役割の定義付けについても討論が行われたが、結論には至らなかった。

2.3 日本アーカイブズ学会の ICA 加盟承認

今回の執行委員会において、日本アーカイブズ学会の新規加盟申請が全会一致で承認され、全国歴史資料保存利用機関連絡協議会に続いて、日本で2番目のICAのB会員となった。

3. CITRA セッション

<プログラム>

開会式 (11月12日 20:00 - 21:30)

3.1 セッション 1 (11月13日 8:30 - 12:30) :
21世紀初頭におけるアーカイブズ、図書館、博物館の専門的理論と実践：類似点と相違点

「アーカイブズにおける専門的理論と実践」
Carol Couture (ケベック国立図書館公文書館館長)、Terry Cook (マニトバ大学教授)

「図書館における専門的理論と実践」
Sjoerd Koopman (国際図書館連盟)

「図書館と公文書館の協力 - 2つの事例」
Ian Wilson (カナダ国立図書館公文書館長)、Lise Bissonnette (ケベック国立図書館公文書館 CEO)

「博物館とアーカイブズの協力事例」
Sina Ah Poe (サモア博物館事務局長)

「アーカイブズ、図書館、博物館の協力：成功の条件」
Kjell Nilsson (スウェーデン国立図書館長)、Atakilty Assefa Asgedom (エチオピア国立公文書館図書館長)、Karel Velle (ベルギー王立公文書館長)

最初のセッションでは、カナダの著名な理論家テリー・クック教授が講演し、アーカイブズの多様化、グローバル化について、様々な事例を引きながら多角的に論じた。いずれ論文にまとめられ、ICAの刊行物に収録される予定である。IFLAの代表は、21世紀の図書館のトレンドは、「蔵書構築 (collection building) からアクセスの提供 (access providing) へ」と大きく変化したと述べ、類縁機関との協力の重要性を強調した。続いて、開催地カナダにおける図書館と公文書館の統合事例が紹介されたが、その中で、統合の直接の原因の1つには、政府による公共機関の経営効率化という課題があり、100年以上別々に歩んできた伝統ある2つの組織が、単に協力するのではなく、機能を統合し21世紀に通用する1つの組織とならなければならなかった、と報告されていたのが印象に残った。

3.2 セッション 2 (11月13日 14:00 - 17:30) :
より良い情報管理実現の契機：アーカイブズと政府記録作成機関の協力

「公共部門の近代化とレコードキープング」
Martine de Boisdeffre (フランス公文書館局長)、Gabriel Ramanantsoavina (フランス財務省)

「連邦レベルの記録管理改革：NARA と連邦政府機関の連携」
Michael Kurtz (米国NARA記録サービス担当館長補)

「政府の記録管理」
Sidek Jamil (マレーシア国立公文書館長)

第2セッションでは、政府機関と国立公文書館の政府記録管理における様々な協力が報告された。マレーシア国立公文書館 (NAM) のシデク・ジャミル館長のプレゼンテーションでは、2003年に新しいNAM法が公布され、電子文書管理もNAMが管轄することになって以降の取り組みを具体的に説明し、政府とのパートナーシップ確立のためには機を逃さず政府首脳の信頼を得ることが大切だと述べ、首相の求めに応じて、建国記念式典のためにマレーシア初代首相の乗った年代物の車をすぐさま調達した経験など、NAMがいかに奮闘したかをユーモアたっぷりに語って、聴衆を大いに沸かせた。

3.3 セッション 3 (11月14日 9:00 - 12:30) :
アーカイブズ、図書館、博物館の間の国際連携の可能性

「ワールド・デジタル・ライブラリー」
John Van Oudenaren (米国議会図書館)

「欧州デジタル・ライブラリー」
Perry Moree (オランダ王立図書館)

「同一語圏内研修における国際協力：フランス語圏アーカイブズの国際ポータル」
Gerard Ermissie (国際フランス語圏アーカイブズ協会議長)、Papa Momar Diop (セネガル国立公文書館長)

最後のセッションでは、世界規模で進む2大デジタル・ライブラリープロジェクトと、フランス語圏のアーカイブズの研修プロジェクトが報告された。このCITRA会合の直前の10月、米国議会

図書館とユネスコがワールド・デジタル・ライブラリーを共同で設立することが発表され、プロトタイプが公にされた。すでにデジタル化されたコレクションを対象に世界規模で参加館を増やす予定だが、現状では世界の主要公文書館の本格的な参加の枠組みが無い。欧州連合が進める欧州デジタル・ライブラリーには ICA 欧州地域支部がプロジェクトに参加していることから、ワールド・デジタル・ライブラリーについても ICA としてアーカイブズ参加の働きかけをすることになり、総会決議に加えられた。

フランス語圏アーカイブズの協力は、フランス国立公文書館がイニシアチブを取り、主にアフリカのフランス語圏のアーキビスト研修を行い、大きな成果を上げている。現在研修ポータルサイトの開発が実行段階に入っているが、引き続き資金調達が必要との報告があった。

3.4 ディスカッション・グループ (11月13日 16:00 - 17:30、14日 11:00 - 12:30) :

参加者が少人数のグループに分かれてディスカッションを行う会議方式は、昨年の円卓会議で初めて行われ、好評だったことから、今年も引き続いて行われ、討論の結果が総会決議に反映された。各グループのテーマは以下の通り。

大学レベルの教育のための学際的アプローチ / デジタル記録の長期保存 / 盗難防止のための戦い / 民間アーカイブズ、博物館・図書館内のアーカイブズ / 防災 / Archipedia プロジェクト / 無料アーカイブ・ソフトウェア ICA AtoM プロジェクト / World Digital Library に含めるべきアーカイブ記録は？ / フランス語圏公文書館のための国際ポータルサイトの他言語圏への応用 / 今日のアーキビストに必要な専門的能力とは？

3.5 国立公文書館長会議 (11月14日 14:00 - 17:30、15日 9:00 - 9:30) :

国立公文書館長会議は、昨年のキュラソー合意に始まる ICA の改革の流れを受けて、今回初めて開催された会合である。公文書館をめぐる状況が劇的に変化しつつある現代において、国を代表

する公文書館の館長が、各国で抱える課題を共有し、連携して解決策を模索することをめざして討論が行われた。「情報化社会におけるアーカイブズのパラダイム・シフト：記録保管者から情報管理者へ」「投資利益率VS国際的な連携：対立か、相補う関係か？」をテーマとしたオーストラリア、英国、フィジー、トリニダード・トバコの国立公文書館長による発表と、グループ討議により構成。情報社会の発展により国立公文書館の役割が保管者 (Keeper) から管理者 (Manager) に変貌し、知識及び情報管理の戦略策定が必須となっていること等が報告され、そのような現状における国際協力のあり方、ICA の役割についての討論が展開された¹。並行して別会場では、各国の専門職団体の代表及び ICA の各セクション代表と、開催国カナダのアーキビストとの意見交換会が催された。

4. 年次総会

ここ数年の年次総会では、ICA の財政状況悪化への対処や先進国からの ICA 改革の要望など、多くの難しい課題が議論されたが、今年の年次総会は財政状況の改善と相まって、比較的穏やかに終始し、執行部から提出した議題についても大きな反発は無かった。主な決定事項は次の通り。

- 次期事務総長としてデビッド・リーチ氏を選出。(引継ぎは2008年 ICA 大会以降の予定)
- 執行委員会の提案に基づき ICA 憲章を改正。
- 2006年度外部監査報告、2008年度予算案を承認。
- 2008年度の各国 A 会員 (国立・連邦公文書館) 分担金を決定。日本は60,000ユーロ。B 会員 (専門職団体・学会) については、現在の会費 (会員人数300人未満150ユーロ、300人以上300

¹ 議長を務めたジュシ・ヌルテパフィンランド国立公文書館長によるまとめの原稿が下記 ICA のホームページで公開されている (2008年4月3日現在)。
<http://www.ica.org/en/2008/02/21/session-national-archivists-citra-2007-quebec-conclusions-mr-jussi-nuorteva>

ユーロ、国際機関600ユーロ)をひとまず据え置くが、来年2008年の年次総会に新たな算出方法が提案される見込み。

- ICA が創立された6月9日を「国際アーカイブズの日」とする旨、ICA 会長名で各国A会員機関の長宛に書簡が送付されることが決まった。
- 2012年のICA大会は、8月19日から25日まで、オーストラリアのブリスベンで開催されることが正式決定され、オーストラリア国立公文書館長によるプレゼンテーションがあった。
- 大会決議を採択(次頁資料参照)。

5. おわりに

今回のCITRAを締めくくる晩餐会は、教会だった建物の礼拝堂で行われた。実は晩餐会の会場に向かう直前、菊池館長に最後の挨拶の依頼があった。すでに年次総会で閉会の挨拶を終えていたこともあって、急なことで原稿を準備する間もなかった。急遽壇上に上がった菊池館長は、150年前のペリー来航から話を始めた。3年前、アメリカやフランス、カナダなど、列強の国立公文書館長が菊池館長を説得し、自分はICAの選挙に立候補することになった。さながらペリーのように彼等は未知の世界への扉を開き、自分はCITRA担当副会長という重責を担うことになったのだ。何も知らなかった自分が、ここまでやってこられたのは、ひとえにここにいる皆さんの温かい友情、そして一緒に働いてきた同朋たちのおかげである...ほんとうにありがとう。菊池館長はそう言って、ICAパリ本部の人々の名前を一人一人呼び、謝辞を述べた。菊池館長の思いはその場にいたすべての聴衆にも通じたようだった。割れんばかりの拍手、スタンディングオベーション。一緒にテーブルにいたイアン・ウィルソンカナダ国立図書館公文書館長は、「まごころから出たスピーチほどすばらしいものはない」と称えた。



送別晩餐会で挨拶する菊池館長

菊池館長の主宰するCITRAは今回で終わった。3回のCITRAを通じてクローズアップされたように、アーカイブズは、まさに多様化・グローバル化した世界状況の中で、歴史資料の金庫番から、最新の技術を操る情報管理のエキスパート、説明責任を保証する記録の護り手へと変貌を遂げつつある。しかし、将来に実りをもたらすであろう過去から現在までの記録を管理、保存し公開する、というアーカイブズのミッションの本質は変わらない。と言うより、このミッションを守るためにこそ、アーカイブズやアーキビストは自らを変貌させてきたのであり、今後も変貌を続けるに違いない。

この変貌の過程を知りたい方は、ぜひ今年の7月21日からクアラルンプールで開催される、第16回ICA大会に参加していただきたい。22日から24日までのセッションで、世界のアーカイブズとアーキビストの努力と健闘の成果が発表されることになっている。国立公文書館では、3つのセッションと修復保存技術のワークショップを主宰する予定で、日本から参加を希望する皆さんに、通訳の提供や旅行案内など様々なサポートを準備している(87頁参照)。皆さん、クアラルンプールでお会いしましょう。

< 資料 >

国際公文書館会議 総会決議 (仮訳)

ケベック、2007年11月16日

各国の国立公文書館長、専門職団体の長、選挙で選ばれた国際公文書館会議 (ICA) 役員及び ICA 職員は、ケベックで開催された第40回国際公文書館円卓会議 (CITRA) の会合において、

1. 公文書館、図書館及び博物館の連携

記録遺産関係機関がより緊密に協働する必要性、及び投資、費用対効果、利用者提供するサービスの質の観点から見た利点に鑑み、

ICA に対して、アーカイブズ関係機関及び団体が図書館及び博物館と協力することを奨励し、お互いの専門分野や関係機関の独自性を尊重しつつ、共通の活動領域における IFLA や ICOM 等との連携を強化することを求める。

2. ワールド・デジタル・ライブラリー

欧州連合によって立ち上げられた欧州デジタル・ライブラリーが、アーカイブズ資料を含めていることを考慮し、

米国議会図書館のイニシアチブが多様な文化の記録遺産へのユニバーサル・アクセスを目指していることを考慮し、

ICA はワールド・デジタル・ライブラリー・プロジェクトの管理者に、下記を求める。

- ・世界の記録遺産において、アーカイブズ資料が欠くことのできない要素であることを考慮する。
- ・ユネスコのメモリーオブザワールド登録リストに含まれているアーカイブズ資料群を優先して含める。

3. 図書館及び博物館の所蔵するアーカイブズ資料

これらのアーカイブズ資料群を、アーカイブズ独自の管理方法と基準にのっとり取り扱う必要性を強調する。

4. 民間アーカイブズ資料の売買

文化遺産として重要な記録の市場価値の高騰と、そのような記録へのマニスクリプトやアーカイブズ資料の販売業者の関心の高まりを憂慮し、

これらの記録の所有者に対し、必要な場合はアーカイブズ機関への移管を行うなど、記録の適切な保存とアクセスを保証するよう奨励する。

5. 専門能力

21世紀においては、記録及びアーカイブズの専門家、図書館司書、博物館学芸員の協力が不可欠であること、それぞれの専門職の正確なアイデンティティを理解しなければならないことを考慮し、

確固たる専門職は核となる専門能力の明確な定義を備える必要があることを考慮し、

各国の専門職団体及びアーカイブズ関係機関に対し、独自の専門能力モデルを開発することを奨励し、

ICA 専門職団体部会 (ICA/SPA)、ICA ヨーロッパ地域支部 (EURBICA)、及び ARMA インターナショナルによって最近組織されたワーキング・グループに対

し、アーカイブズ専門職の専門能力の明確な定義の策定に向けて努力するよう、奨励する。

6. アーカイブズ資料の防災

自然災害、あるいは人的災害の結果、唯一のかけがえない記録を失う危険性について重大な懸念を抱き、多くの国において、現存する法律が災害後の復興に対する包括的な戦略を持っていないことを考慮し、ICA が会員国に対し、固有の領土の内外におけるこれらの記録の保護の法的・政策的枠組みを設けるよう奨励することを求め、

アーカイブズ機関に対し、マイクロフィルム化やデジタル化等の代替措置を含め、これらの記録の適切な保存を保証するための、戦略及び手順の開発と実行を奨励する。

7. 盗難に対抗する方策

アーカイブズ資料の商業的価値の増加と、それによってアーカイブズ関係機関の内部や閲覧室の利用者による盗難の危険性が高まることに、

ICA に以下を要請する。

- ・IFLA や ICOM 等すべての関係団体と協力し、セキュリティやこの問題のために立ち上げられたプロジェクトへの支援に取り組むワーキング・グループを組織する。
- ・図書館、博物館、美術ギャラリー、その他の関係する機関と協力して、アーカイブズ資料の盗難を防ぐための実施基準を策定する。
- ・国立機関や国際機関と協力して、アーカイブズ資料の盗難を防ぐための計画を立てる。
- ・政府及び司法組織、警察機構に対し、アーカイブズ記録の盗難は美術作品の盗難と同様に深刻な犯罪であることを考慮するよう働きかける。

8. デジタル記録の長期保存

デジタル記録が公共・民間両方の部門において一般化したことを考慮し、

これらの記録の長期保存の必要性を考慮し、

デジタル記録の作成者及び産業界に対し、解決策を見いだすために ICA と協力するよう強く求める。

9. 世界アーカイブズ宣言

「ケベック・アーカイブズ宣言」の策定と公表に至ったイニシアチブとの関係を考慮し、

これをモデルとして、ICA が専門職団体部会 (ICA/SPA) に対し「世界アーカイブズ宣言」草案を準備するよう命じることを提案する。

10. 謝辞

優れた講演をして下さった発表者の皆さんと、討論及びディスカッション・グループに積極的に参加した代表の皆さんに感謝いたします。

歓迎と心のもったおもてなしをいただき、優れた会合を準備して下さった、カナダ国立図書館公文書館及びケベック国立図書館公文書館の館長とそのスタッフの皆さんに対して、深く御礼を申し上げます。